

①地域がん診療拠点病院の機能とソーシャルワーカーの役割について：

地域がん診療拠点病院申請準備委員会の体制や、特に緩和ケアチームにおけるMSWの役割について報告があった。認可を受ける前の準備として、それぞれの役割の明確化と共通認識の確立・共有化が重要であり、事前研修やフォローアップ研修の体制が必要と感じた。

医療相談室も地域の社会資源として、広く登録医へも開放するという方針がユニークであった。当相談室も公立病院として外来患者のみではなく、市民や開業医から相談の電話を受けることもあるので、参考にしたい。

②転院患者の満足度調査について：

三次救命救急センター併設の特定機能病院から、転院患者の転院先病院に対する満足度調査報告があった。全体の71.3%が満足しているという結果であったが、意識状態の悪い、医療依存度の高い群が満足度が低い傾向があった。

当院でも今後ますます在院日数が短縮すると思われ、援助内容の評価をするために、調査は必要と考える。近隣で開設が増えている回復期リハビリ病棟等、領域別に調査を計画していきたい。

③長期入院重症小児のサポートシステムについて：

重症児が入院している病院のMSWがワーキンググループを結成し、サポートシステムの構築に向けて実態調査の報告があった。

当院もNICUがあり、長期入院児への相談体制、退院後のサポート体制については、不十分で課題が多いと考えるので、県内の小児病棟担当MSWや保健師等と改善のための話し合いを持ちたい。

④病棟担当制導入前後の業務変化について：

当院でも、平成元年1名体制から、現在3名、7月から4名体制の予定で、現在病棟担当制を一応とっている。しかし、病棟による相談件数のばらつきや、相談依頼経路の整理がされていない病棟、必要な相談に迅速に対応できない病棟もあるので、依頼経路の整理や業務量や効果の分析もしていきたい。

⑤電子カルテによるソーシャルワーク記録について：

開院と同時に電子カルテを導入した病院よりソーシャルワーク記録の電子化について報告があった。情報の共有化と問題解決の効率化が図られるが、導入時に必要なことは、現状のMSW業務の分析、業務指針の標準化、将来の業務の分析、統計としてどのような内容が必要か整理をすることであった。ソーシャルワーク記録については、個人情報保護の考え方の違いから、すべてカルテ情報に一元化する方法と、一部相談室のみでしかアクセスできない方法があり、賛否両論の議論があった。

当院でも電子カルテ導入に向けて、上記のような検討を進める必要がある。